養液栽培用肥料

OATハウス肥料シリーズ

●包　装	OATハウス1号	15kgポリ袋入り	OATハウス5号	1kgポリ袋入り×10袋／ケース
	OATハウスS1号	〃	OATハウス6号	10kgポリ袋入り
	アミノハウス1号	〃	OATハウス7号	〃
	アミノハウスS1号	〃	OATハウス8号	〃
	OATハウス2号	10kgポリ袋入り	OATハウス9号	〃
	OATハウス3号	〃	OATハウス10号	〃

「OATハウス肥料」は、長年の養液栽培技術を生かし、高度に精製された原料を組み合わせた肥料です。水耕栽培やロックウール栽培の生育に必要な養分を含む培養液として、全国に普及しています。また、養分吸収バランスがすぐれ、鉄欠乏症防止のためキレート鉄を配合することにより、各種の養液栽培や、そ菜の養液育苗用肥料としても安心して使用できます。

［OATハウス肥料シリーズ一覧］

OATハウス１号
生第92893号

OATハウスS１号
生第92891号

アミノハウス１号
生第103384号

アミノハウス S1 号
生第103385号

OATハウス２号
（生第92812号
生第75834号）

OATハウス３号
生第78297号

OATハウス５号
生第68572号

OATハウス６号
（生第46460号）

OATハウス７号
輸第9845号

OATハウス８号
生第69603号

OATハウス９号
輸第9846号

OATハウス 10 号
（生第92813号）

（　）は他社登録品目

[OATハウス肥料シリーズの成分組成]

製品名	保証成分（%）						配合成分（%）				
	窒素全量 TN*** (AN/NN)	水溶性りん酸 P_2O_5 (WP)	水溶性加里 K_2O (WK)	水溶性苦土 MgO (WMg)	水溶性マンガン MnO (WMn)	水溶性ほう素 B_2O_3 (WB)	カルシウム Ca (WCa)	鉄 Fe	銅 Cu	亜鉛 Zn	モリブデン Mo
OATハウス1号	10.0 (1.5/8.2)	8.0	27.0	4.0	0.10	0.10		0.18	0.002	0.006	0.002
OATハウスS1号	9.0 (－/8.6)	7.0	32.0	4.0	0.05	0.07		0.15	0.002	0.006	0.002
アミノハウス1号*	10.0 (1.5/8.0)	8.0	27.0	4.0	0.100	0.100		0.18	0.002	0.006	0.002
アミノハウスS1号*	9.0 (－/8.5)	7.0	32.0	3.5	0.050	0.070		0.15	0.002	0.006	0.002
OATハウス2号**	11.0 (NN)						16.4				
OATハウス3号	13.0 (NN)		46.0								
OATハウス5号	6.0 (AN)		9.0		2.00	2.00		5.7	0.04	0.08	0.04
OATハウス6号				16.0							
OATハウス7号	11.0 (AN)	61.0									
OATハウス8号	10.0 (NN)	9.0	40.0								
OATハウス9号		51.0	33.0								
OATハウス10号			53.0								

＊アミノ酸、有機酸を含む。（詳しくは「アミノハウス1号、アミノハウスS1号の特長」をご覧ください。）
＊＊CaOとして23.0%
＊＊＊AN：アンモニア性窒素、NN：硝酸性窒素

[標準培養液の調整方法と特長]

培養液処方例（g/1000ℓ）

肥料名	A処方	SA処方	C処方	SC処方	B処方
OATハウス1号 (アミノハウス1号*1)	1500		1500		
OATハウスS1号 (アミノハウスS1号*1)		1500		1500	
OATハウス2号	1000	1000	800	800	950
OATハウス3号					810
OATハウス5号					50
OATハウス6号					500
OATハウス7号					155
OATハウス8号			200		
OATハウス9号*2	B処方のアンモニア性窒素を少なくする時は7号の一部を9号に置き換える またりん酸と加里を強化したい時は培養液1トンあたり100～200gを添加する				
OATハウス10号*2	加里だけを強化したい時は培養液1トンあたり100～200gを添加する				

備考：各培養液処方ともEC1.3dS/m以下の低濃度で使用する場合は、OATハウス5号を培養液1000ℓ あたり、20～30g程度追加してください。
*1）アミノハウス1号、アミノハウスS1号は、葉菜類向けのアミノ酸・有機酸入り肥料です。培養液の調整方法はOATハウス1号と同じです。
*2）OATハウス9号、OATハウス10号は、各作物の栽培時期や生育ステージにあわせて成分調整するのに用います。

培養液処方の特長

A　処　方　：　果菜類、葉菜類、花き類に広く使用できる汎用型培養液処方です。

ＳＡ処方　：　トマトの尻腐れやレタスのチップバーンなど、高温による生理障害が発生しやすい時期の果菜類、葉菜類に対応した培養液処方です。

C　処　方　：　アンモニア性窒素を適度に含み、秋から春の果菜類に対応した培養液処方です。

ＳＣ処方　：　原水にカルシウムを多く含む場合や、高温による生理障害が発生しやすい時期の果菜類、葉菜類に対応した培養処方です。

B　処　方　：　汎用性の高い園試処方です。

［標準培養液の濃度］

標準培養液の成分組成（ppm）

成分名	A処方	SA処方	C処方	SC処方	B処方
窒素全量（TN） アンモニア性窒素（AN） 硝酸性窒素（NN）	260 23 233	245 (6) 239	258 23 231	223 (6) 217	230 20 210
りん酸（P_2O_5）	120	105	138	105	93
加里（K_2O）	405	480	485	480	377
石灰（CaO）	230	230	184	184	219
苦土（MgO）	60	60	60	60	80
マンガン（MnO）	1.5	0.75	1.5	0.75	1.0
ほう素（B_2O_3）	1.5	1.1	1.5	1.1	1.0
鉄（Fe）	2.7	2.3	2.7	2.3	2.9
銅（Cu）	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02
亜鉛（Zn）	0.09	0.09	0.09	0.09	0.04
モリブデン（Mo）	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02
EC値（dS/m）	2.6	2.6	2.7	2.4	2.4

注）　EC値は水道水（EC0.11dS/m、水温25℃）に溶解し、測定しました。

標準培養液のme濃度（me/ℓ）

成分名	A処方	SA処方	C処方	SC処方	B処方
窒素（Ｎ）	18.6	17.6	18.4	16.0	16.4
リン（Ｐ）	5.1	4.4	5.8	4.4	3.9
カリウム（Ｋ）	8.6	10.2	10.3	10.2	8
カルシウム（Ｃａ）	8.2	8.2	6.6	6.6	7.8
マグネシウム（Ｍｇ）	3.0	3.0	3.0	3.0	4.0

各濃度ともに保証成分より算出してあり、実際の濃度は表中の値より若干高濃度になります。

[濃厚原液の調製法]

濃厚原液タンクが2基あり、調節装置で給肥する場合、以下のような割合で肥料を秤量し、所定のタンクへ入れて溶解してください。

標準培養液20トン分の原液（100倍希釈用濃厚原液：200ℓタンク）の使用量

濃厚原液タンク	A処方	SA処方	C処方	SC処方	B処方
1　号　タ　ン　ク	1号　30kg	S1号　30kg	1号　30kg 8号　4kg	S1号　30kg	3号　16.2kg 5号　1kg 6号　10kg 7号　3.1kg
2　号　タ　ン　ク	2号　20kg	2号　20kg	2号　16kg	2号　16kg	2号　19kg

備考：1）培養液をEC0.6～0.8dS/mで使用する場合はハウス5号2kg、0.8～1.3dS/mで使用する場合はハウス5号1kgを、1号原液タンクに追加してください。
2）B処方の濃厚原液を作る場合、ハウス3号を2等分し、1号タンクと2号タンクの両方に分けて入れると100ℓに溶解できます。

[OATハウス肥料シリーズの使い方]

培養液の設定濃度は、栽培される作物や養液栽培装置により異なりますが、標準培養液の0.5～2倍程度で使用してください。

培養液のEC管理例（dS/m）

作物	育苗期	本圃		
		定植初期	中期（交配期）	収穫期～後期
トマト	1.2	1.2～1.5	1.2～1.8	2.0～2.8
なす・ピーマン	1.2	1.2～1.5	1.5～1.8	1.8～2.4
きゅうり	1.2	1.2～1.5	1.5～1.8	1.8～2.4
メロン	1.2	1.2～1.5	2.0～2.4	1.2～1.5
いちご	0.6～0.8	0.6～1.0	0.8～1.2	0.8～1.5
みつば・ねぎ	1.2	1.2～3.5	1.5～3.5	2.4～3.5
サラダ菜	1.2	1.2～3.0	1.2～3.0	1.2～3.0
ばら・カーネーション	1.2	1.0～1.5	1.2～1.8	1.5～2.0

備考：表中のEC値は一例です。高温期はやや低く、低温期はやや高く管理するのが一般的です。また栽培途中で培養液の肥料成分バランスが大幅に違ってきた時や、病原菌等で汚染された時は、速やかに培養液を全量交換してください。

［培養液管理のポイント］

1. 原水の水質
   原水のECが 0.15dS ／ m 以下の時は、一般に基本処方で対応します。
   ECが 0.15dS ／ m 以上の時は、分析を行い修正処方を選択します。
2. pH 管理
   培養液の pH は 5.0 ～ 6.5 の範囲で管理します。pH が 6.5 以上になると、マンガンや鉄等の微量要素欠乏が発生しやすくなります。また pH が 5.0 以下になると、カルシウムなどの吸収が悪くなります。培養液 pH の調整には「PH 調整剤アップ」、「PH 調整剤ダウン」をご使用ください。
3. 給液管理
   各種栽培システムに応じた適切な給液管理が必要です。作物の生育に最適な根圏環境となる給液管理をしてください。
4. 液温管理
   肥料各成分の吸収量は根圏温度により大きく異なってきます。栽培作物の根圏部が好適温度に保てるよう、培養液の液温を管理してください。
5. 微量要素欠乏対策
   アミノサンビの 500 倍（単用）～ 1000 倍（農薬混用）の葉面散布をしてください。

アミノハウス1号、アミノハウスS1号の特長

「アミノハウス1号」「アミノハウスＳ１号」は、養液栽培で効果のある数種のアミノ酸・有機酸を厳選し、最も有効な濃度に配合した肥料です。従来の無機肥料使用の養液栽培では得られなかった高品質野菜の生産が可能になります。

1. 葉菜類を対象とした新タイプのアミノ酸・有機酸入り養液栽培用肥料です。
2. 生育促進と品質向上や棚持ち性を良くする効能があり、みつば、ねぎ、サラダ菜 などに特に高い効果があります。
3. 無機肥料成分の含量は、OATハウス1号、OATハウスS1号と同じです。また、他のハウス肥料シリーズ同様に厳選された原料を使用した高品質の養液栽培用肥料です。

［使用上・保管上の注意］

1. アルカリ性資材とは混用しないでください。
2. 肥料以外の用途には使用しないでください。
3. 幼児等の手の届かない場所に保管してください。
4. 開封したまま放置すると吸湿しますので、袋の口を密封してください。
5. 直射日光をさけ、冷暗所で荷崩れが起こらないように保管してください。
6. 使用後は洗眼やうがいをし、皮ふに付着した場合は洗い流してください。
7. 眼に入った場合は、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診断を受けてください。
8. 誤って飲み込んだ場合は、できるだけ早く医師の診断を受けてください。
9. 石灰硫黄合剤と混合すると、有毒なガスが発生するおそれがあり、危険ですから混用しないでください。
10. 空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。